

民族衣装を着た聖母

近現代フィリピンの美術、信仰、アイデンティティ

古沢ゆりあ 著

本体 6850 円＋税 ISBN 978-4-87950-633-7 C3016

264 ページ

2021 年 2 月発行

民族衣装をまとった聖母像から
近現代フィリピンの歴史と人びとの
姿が見えてくる。

若手研究者による現地フィールドワークに
イメージ
もとづいた、像の人類学

20 世紀以降、アジア各地で生まれた現地の伝統衣装を着た聖母マリアの絵画や彫像。これら「民族衣装を着た聖母」の誕生を、キリスト教が広く定着するフィリピンの事例からたどる。そこから浮かび上がるのは、スペイン植民地から独立革命を経て近代国家形成に向かう歴史を背景とした人びとの文化交渉とアイデンティティ形成の複雑な過程である。

はじめに ―― 聖画像が“生きている”国

序章 民族衣装を着た聖母

―― 包摂と異化の視覚表象

第一章 フィリピンにおける聖母崇敬の歴史と図像

―― マゼラン上陸からピープルパワーまで

第二章 バリタワックの聖母

―― 革命とフィリピン独立教会

第三章 ガロ・B・オカンボ作《褐色の聖母》

―― ローカルカラーとフィリピン近代美術

第四章 バランガイの聖母

―― 信仰刷新運動、民間信心、奇跡譚

第五章 新たに生み出される現地の聖母

―― 「フィリピンの聖母」と「フィリピンのマドンナ」

終章 まとめと考察



貴店（帖合）印

ご担当

6850

ISBN978-4-87950-633-7 C3016 ¥6850E

注文
数

書名

民族衣装を着た聖母
近現代フィリピンの美術、信仰、アイデンティティ

発行所

清水弘文堂書房

著者

古沢ゆりあ

本体 6850 円＋税
税 10% = 定価 7535 円